

街歩き
北斎
ギャラリー

北斎通り

両国／錦糸町

街 歩き「北斎ギャラリー」は、墨田区が所蔵する葛飾北斎の作品をプリントしたシートを街路灯と公衆トイレに貼り付けたもので、平成16年度に策定した「墨田区観光振興プラン」で提案された「街歩き観光」のひとつとして実践したものです。平成11年8月に「北斎通り」と名づけられた街路のうち、北斎が生まれた地を含む「亀沢一丁目から四丁目まで」の約1km間を対象としました。この企画は、北斎通りという名称のイメージづくりの一端として、また墨田区北斎館(仮称)が開館するまでのプロローグとして実施したものです。このマップを手に、北斎の絵を鑑賞しながら街を歩いてみましょう。

日 本の近代画界を代表する絵師・葛飾北斎(1760～1849)は、江戸本所割下水(現在の墨田区亀沢)に生まれました。錦絵の「富嶽三十六景」や絵手本の「北斎漫画」など多くの作品は、遠く海を渡って19世紀ヨーロッパの印象派運動に大きな影響を与えたことでも知られています。20歳で浮世絵師として出発し、没するまでの70年間にわたって築き上げた北斎の芸術世界は、すでに浮世絵という範疇をこえ、今も世界の人の心を魅了し続けているのです。本所に生まれ、浅草で90歳の生涯を終えた北斎は、93回もの引越しをしたといわれます。資料によると、北斎が住んだ場所の一部が知られていますが、それらは、本所や向島(いずれも墨田区)、浅草を中心とした隅田川界隈に集中しており、墨田区との深い関わりがうかがわれるところです。



葛飾北斎 略年譜

宝暦十年(一七六〇) 九月二十三日、本所割下水に生まれる。幼名時太郎。

安永七年(一七七八) 十九歳にして勝川春章に師事し春朗と号す。黄表紙の挿絵や役者絵を描き、浮世絵師としての本格的修行に入る。

寛政十年(一七九八) 三國稲荷の間帳に提灯と扇額を描く。

文化一年(一八〇四) 音羽護国寺の間帳で、二二〇畳大の達磨半身像を描く。

文化五年(一八〇八) 亀沢町に新宅を構え、柳橋河内屋半二郎の楼にて書画会を催す。

文化十一年(一八一四) 絵手本「伝神閑手 北斎漫画 初編」刊行。

天保二年(一八三一) 錦絵「富嶽三十六景」この頃。

天保五年(一八三四) 絵手本「富嶽百景」を描きはじめる。

嘉永二年(一八四九) 肉筆画「富士越龍図」「雨中の虎」春頃、病床に臥す。

四月十八日、浅草聖天町遍照院境内の仮宅にて没する。

辞世の句
「悲と魂でゆく気散じや夏原」



北斎肖像 溪斎英泉画

HOKUSAI Street
Gallery Map

発行／墨田区文化観光協会 <http://www.kanko-sumida.com>
企画／墨田区地域振興部文化振興課
〒130-8640 墨田区吾妻橋一丁目23番20号 電話 03-5608-1111(代)
編集協力／墨田区文化振興財団北斎担当

葛飾北斎 作品解説



MADO.

23

富嶽三十六景 御厩川岸より両国橋夕陽見

「富嶽三十六景」は、富士山をテーマとした揃い物で、出版当初、その表題が示すように36枚で完結を予定していたようです。しかし、相当の人気を呼んだらしく、天保二年（一八三二）に発行された柳亭種彦作「正本製」巻末の、西村屋与八の広告には「三十六景に限らず」とあります。これによつて、ほぼ天保二年頃を前後する出版であったこと、また売れ行きによつては相当数の出版企画があったことが知られます。

現在、表題あるいは主要部分が墨色によつてなされたものが、36枚以降の追加作品であると考えられています。

MADO.

2

諸国名橋奇覧 足利行道山くものかけはし

「諸国名橋奇覧」は、各地の橋梁を主題とした、全11枚からなる揃い物です。西村屋与八から発行されたもので、同版元から出版された「富嶽三十六景」とほぼ同時期のものと考えられています。全国を通覧すると、北斎は単に各橋の構造や奇抜さに注目していることが窺われます。それは、北斎風景画に一貫して見られる傾向で、一つの対象物のバリエーションを様々な追求する姿勢がここでも充分に発揮されているといえるでしょう。

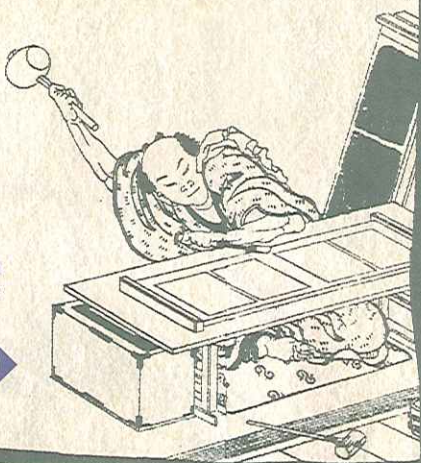


MADO.

22

百人一首うばがゑとき 春道列樹

「百人一首うばがゑとき」は「百人一首」を乳母が子供に分かり易く絵で説明するという主旨で制作された揃い物でした。ところがその意に反して、当時はあまり人気を呼ばなかったらしく、20数枚で出版が途絶えています。しかし、北斎自身は、教育という見地からか、当初から強い意欲をもつて臨んでいたようで、出版されたものと残された下絵とを総合すると、現在90数図が知られています。



MADO.

77

芥子図

この大錦版の花鳥シリーズは、全10枚からなるもので、天保初年頃の版行とみられています。画面は涼風にあたたかも芥子全体が揺らいでいるかのように見えます。また向かって左に茎を大きく湾曲させ、薄藍で全体を潰しているのが、風と共に大空をも想起させるようなすがすがしさが横溢し、一段と格調高い画面となっています。全体の印象としては、極めてモダンで爽やかな色彩感覚から、近代の画家が描いたといつてもうなずけるのではないのでしょうか。



MADO.

82

勝景雪月花 東都隅田の月

「勝景雪月花」は、東都・摂津・山城の景観を、各々3図ずつ雪・月・花に分けた全9枚のシリーズです。版行年代は、文政（一八一八〜三〇）末から天保（一八三〇〜四四）初年頃とみられます。小品ではありますが、他のシリーズとは異なった濃彩な色調を示して、好感が持たれます。ちょうど「富嶽三十六景」等の風景版画を版行していた時期の作であり、いずれも見事な季節感を横溢させて、画面の小ささを感じさせないのには、さすがという他ありません。



MADO.

85

伝神開手 北斎漫画（相撲）

『北斎漫画』は、北斎が気の向くままに描いたという様々な図柄を、三千図以上収めた絵手本の代表作です。文化十一年（一八一四）から出版されはじめ、明治期に全15冊をもって完結しました。

フランスの印象派の画家たちに影響を与えた作品としても知られています。